

支店に防災井戸

た際に、近隣住民に生活用水として提供する。

井戸の深さは本店営業部が28・5尺、鴻巣支店が32・5尺。取水量はいずれも1日当たり2万1600リットルで、同93人分の生活用水を

埼玉縣信用金庫（埼玉県熊谷市、井上義夫理事長）は、本店営業部（同市）と鴻巣支店（埼玉県鴻巣市）に防災井戸を設置した（写真）。水害により断水など生活インフラが被害を受け

埼玉縣信金、水害時提供



確保できる。日さく（さいたま市大宮区）が、地質調査や地盤調査、さく井工事などを担った。

井戸は地震には強いが、水害時には汚泥などで汚染される恐れがある。このため、防災専門家の意見やハザードマップを基に被害が

比較的小さいとされる地域を設置場所に選定。本店営業部は熊谷市のシンボル・八木橋百貨店に近く、地元で認知度の高いエリアに立

地し、災害時に住民が集まりやすい。鴻巣支店は周囲より高台にあり水害時でも対応しやすいため、それぞれ適地と判断した。

埼玉縣信金が支店に防災井戸を設置するのは今回が初めて。今後は防災井戸の使用訓練も実施する計画だ。

（さいたま）